

# 保育士をめざす短大生がえがく 「保育所・施設の子ども像」と「保育士像」 (第1報)

－実習前のイメージ－

幸 順子

## The Ideal Image of Children and Teachers in Nursery Schools by Junior College Students (I) :Before the Child Care Practice

Junko YUKI

### 1. 緒言

保育所およびその他の児童福祉施設には、子どもの全面発達を保障し養育する重要な使命と役割がある。それぞれの児童福祉施設の場において行われる具体的な保育は、各々の保育者の暗黙裡の「子ども観」・「保育観」にしたがっている。各々の保育士が、今日の社会や家庭の変化と子どもの状況を踏まえ、子どもの姿や保育のあり方を考察し、どのような「子ども観」・「保育観」を抱き、理想を実現するためにどのような努力をするかは、そこで展開される保育の質を左右するものであるし、「専門職」としての保育の確立と向上の基盤になるものでもあると考えられる。また、そうした理想に向かって実践することのできる保育士を養成することが保育士養成校の課題となっている。

保育士をめざす学生が主体的に学ぶために必要な教育や指導を探るために、学生が描く「子ども像」・「保育士像」を明らかにしようとする研究としては、星野他 (1995)<sup>1)</sup> の学生の子ども観に関する大学間比較の研究を始めとして、齋藤他 (2006)<sup>2)</sup> が1年次の学生を対象とし、「理想の保育士像」と「理想とする保育士になるための課題」に関して択一選択式質問紙調査方法による研究を行っている。また、上村・鈴木 (2007)<sup>3)</sup> は、短期大学2年次の学生を対象に、実際の事例を自由記述で挙げる方法を用い「理想の保育者像」を明らかにしている。

教育課題を探るための基礎として学生の「子ども像」・「保育士像」を明らかにしようとする場合、齋藤ら (2006)<sup>2)</sup> に見られるような択一選択式質問紙調査方法は、研究方法としてより客観性に優れることは確かである。しかしながら上村・鈴木 (2007)<sup>3)</sup> の研究に示されるように、実習などの実践的体験学習以前や、実践も含めた学習後の学生の「自由記述」に表されるものは、たとえ実践 (実習) 経験のなさ故に十分な言語化が出来なかったとしても、その事実も含めそれが学生自身のその時々の学習の成果であると捉えることができる。つまり「子ども像」・「保育士像」を学生自身が自分自身で白紙から思い描き記述する場合、そこに記述されたものは自らの学びの成果であるし、また同時に、学びを振り返り言語化すること自体が保育士の専門性として求められる「自己省察」の機能を果たすものであり、教育的にも意義深い。

## 2. 目的

保育を学ぶ学生が、どのような「子ども観」・「保育観」を抱き、それを実践の場において具体的な子どもの姿や保育者の姿に照らし合わせて振り返り、どれくらい自分自身の「子ども像」・「保育士像」として具体的なイメージをいただけるか、あるいはそのイメージに向かって具体的にどのような努力をしようとしているかは、保育士養成校における一つの教育の成果を示すものであるといえる。

本研究では、保育士を目指して履修中の学生を対象に、各自が思い描く、保育所とその他の児童福祉施設の「子ども像」・「保育士像」・「子どもの現状や施設の役割についての理解」・「保育士像への努力」について調査した。<sup>4) 5) 6)</sup> これらについて実習前と実習後の比較検討を行い<sup>7)</sup>、得られた知見を専門職としての教科内容の教育と指導に生かすことを目的とする。本稿では、実習前の「子ども像」と「保育士像」を明らかにした。

## 3. 方法

- (1) 調査対象：保育士養成短期大学部1年生女子110名。
- (2) 調査方法と調査項目内容：すべての学生が実習前であり、1年次前期の授業の大半が終了に近づいた段階で、各々の学生が描く『子ども像』（質問項目1）、『保育士像』（質問項目2）、『子どもの現状や施設の役割についての理解』（質問項目3）、『保育士像へ向けた努力』（質問項目4）について、「保育所」と「施設」それぞれの保育において各学生の考えを尋ねる自由記述式質問紙調査を行った。調査項目の内容を表1に示す。
- (3) 調査年月日：2005年6月30日
- (4) 回収率：100%
- (5) 整理方法：「保育所」と「施設」それぞれについて、質問項目への回答から実習体験前の『子ども像』（質問項目1）、『保育士像』（質問項目2）、『子どもの現状や施設の役割についての理解』（質問項目3）、『保育士像へ向けた努力』（質問項目4）のそれぞれについて出現した記述内容を抽出しまとめた。1人の回答中に複数個の記述内容が出現した。各学生の「保育所」と「施設」の『子ども像』、『保育士像』、『保育士像への努力』について、それぞれ出現した記述内容を分類し、出現頻度（延べ頻度）を数え多い順にまとめた。

表1 子ども像と保育士像についての質問

項目	保育所	施設
1	前期、保育士になるための学習をして、あなたの描く保育所の子ども像（どんな子どもに育てたいか）について記述して下さい。	前期、保育士になるための学習をして、あなたの描く施設の子ども像（どんな子どもに育てたいか）について記述して下さい。
2	学習・新聞等から今日の子ども（0～6歳）の特徴はどのようにとらえていますか。	保育所を除く児童福祉施設を一つ選び、その施設の役割について記述して下さい。
3	あなたのなりたい保育所の保育士像をどのように描いていますか。（保育士像について）	あなたのなりたい施設の保育士像をどのように描いていますか。（保育士像について）
4	上記の保育士像をめざして、今後あなたは何をどのように努力しますか。（努力したいこと）	上記の保育士像をめざして、今後あなたは何をどのように努力しますか。（努力したいこと）

## 4. 結果

各学生の「保育所」と「施設」記述内容の分類に際しては、「保育所保育指針」8）に示される「保育の原理（保育の目標、方法、環境）」と「保育内容の構成の基本方針（保育の内容と計画）」の考え方、特に保育内容の5領域である「健康（心身の健康に関する領域）」・「人間関係（人との関わりに関する領域）」・「環境（身近な環境との関わりに関する領域）」・「言葉（言葉の獲得に関する領域）」・「表現（感性と表現に関する領域）」などの概念を踏まえ、これらに従って分類を試みた。なお、複数の内容領域にまたがると思われる記述の場合は、一つの記述につき重複して内容の出現度数をカウントした。記述の内容と出現頻度の順位について、「保育所」は表2-1、2-2、2-3に、「施設」は表3-1、3-2、3-3にそれぞれ示した。

### （1）「保育所」の『子ども像』と『保育士像』と『保育士像への努力』

#### ① 保育所の子ども像

もっとも多いのは『人間関係』についてであり、具体的な内容は「思いやりのある子」、「友だちと仲よくする」、「人を愛する気持ちをもつ」、「社会のルールを守る」、「あいさつができる子」が多かった。

2番目は『人格』に関する子ども像で、「やさしい気持ちをもつ」、「命を大切にする」「人や家族に愛される存在」、「人を信じる」、「笑顔のある子」、「感謝の気持ちをもつ」子ども像であった。

3番目以下の『健康』は、「安全な生活」、「心身の健康・発達」、「明るい元気な子」であった。『環境』は、「自然の美しさ」、「動植物への愛護や世話、感性、気づき」に関するものであった。『言葉』について

は、「好奇心」、「興味関心」、「思考・認識」、「想像」、「工夫のできる子」、「ことば

表2-1 保育所の子ども像

記述内容	順位（出現度数）
人間関係	1 (199)
人格	2 (114)
健康	3 (48)
環境	4 (43)
言葉	5 (42)
人権（人間存在・人間尊重）	6 (35)
生活習慣	7 (33)
あそび	8 (28)
表現	9 (7)

を正しく使える子」等であった。『人権（人間存在・人間尊重）』は、「愛されて育つ」、「人を愛し頼れる」、「自分の存在を大切にする」、「生活習慣」は、「基本的な生活習慣・社会的生活習慣の自立」であった。『あそび』は、「思いっきり元気よく」、「自由に遊ぶ」、「戸外や自然の遊びを楽しめる」の順であった。

## ② 保育所の保育士像

表2-2 保育所の保育士像

記述内容	順位（出現度数）
人間性	1 (194)
保育の方法	2 (88)
子どもの理解	3 (74)
家庭・地域との協力・連携	4 (69)
保育者の健康管理	5 (64)
保育の環境	6 (54)
保育の内容	7 (44)
保育所の役割	8 (21)
保育目標の設定・計画	9 (18)
守秘義務	10 (6)

第一に『人間性』、具体的には「笑顔を絶やさない」、「やさしい心」、「信頼される」保育士の内面を重視している。行動面では、「子どもの手本になる」、「見守る」、「子どもの目線で行動する」やさしいお母さんの存在の保育士像が目立った。

続いて『保育の方法』としては「積極的な子どもとのふれ合い」、「共感」、「平等」、「発達に合った援助・手助け」を求めている。

『子どもの理解』は、子どもの実態を把握し、子どもの素直な気持ち・つぶやきなど、その内面理解ができる保育士像を求めている。

その他『家庭・地域との協力・連携』では、「保護者との関わり、協力・対応」、「育児相談」、「親支援」のできる保育士像を求めている。『健康管理』では「心身の健康」について述べている。『保育の環境』としては、「環境を整え」、「明るい雰囲気づくりに心がける」などがあった。『保育内容』としては、「ことば」、「生活習慣」、「遊びの援助」などの視点を重視した保育士像を描いている。『目標の設定』については、「一人一人の個性を引き出し」、「個人尊重」をする保育士像を述べ、『保育所の役割』については「保育士の職務を理解する」など具体性はなく、『守秘義務』についても記述が乏しかった。

## ③ 保育所の保育士像への努力

最も多いのは『人間性・保育者自身の心身の健やかさ』で、具体的には「日常、規則正しい生活をし、体力づくりと健康管理を第一とする」、「どんな場面でも温かく」、「明るく」、「やさしい心」、「柔軟性」、「ゆとりの心を持つように精神的健康に心がける努力をする」などである。

次の『保育の方法』では、「苦手なピアノをマスターしたい」、「手遊び」、「折り紙」、「紙芝居」、「絵本の読み聞かせ方」、「子どもへの接し方を学ぶ」などである。

続いて『子どもの理解』は、「子どもと同じ視線・立場で」、「ありのままの子どもの感情・気持ちを素直に受け入れ」、「共感できるように心理学などの教科や実習から学ぶ（子どもの内面理解の努力）」、「実習・ボランティアを通して、実体験から子ども本来の姿を学ぶ」「事例研究から学ぶ」などである。

以下、『家庭の協力・連携』は、「コミュニケーション論」、「援助論」、「異文化支援」、「地域論などの学習」、「地域の情報・新聞から問題把握し対応を学ぶ」、「実習・

ボランティアで直接保護者と触れ、連携の仕方を学ぶ」などである。『子どもの保健・安全・健康』は、「子どもの心身の小さな変化に気づけるようできるだけ多くの子どもと接し、観察する」、「問題をもった子ども・障害児・乳児・被虐待児への保健について学ぶ」、「安全・ケアの仕方を実習・ボランティア学習から学ぶ」などである。『保育の環境』は、「子どもは環境に影響を受けやすいので、のびのび遊べる環境、生活環境、教育環境、自然・物的・人的環境とは何かを理論と実際

(見学・学習・地域のボランティア)から広く学ぶ」などである。『保育の内容』は、「子どもの興味や発達に合った遊びや生活の養護と教育内容を実習から体験的に学ぶ」、「苦手なピアノ、人前に出て話せない等を克服したい」、「手遊び、折り紙、紙芝居、絵本の読み聞かせ、童話を話すことなど上手になりたい」、「子どもと一緒に遊んで身につけたい」などである。その他、『保育所の役割、育児相談』、『保育目標の設定』、『守秘義務』などが少数あった。

表2-3 保育所の保育士像への努力

記述内容	順位 (出現度数)
人間性・保育者自身の心身の健やかさ	1
保育の方法	2
子どもの理解	3
家庭の協力・連携	4
健康管理 (子どもの保健・健康・安全)	5
保育の環境	6
保育の内容	7
保育所の役割、育児相談	8
保育目標の設定・計画	9
守秘義務	10

## (2) 施設の「子ども像」と「保育士像」と「保育士像への努力」

### ① 施設の子ども像

最も多いのは『人間関係』に関するもので、「仲間を大切にし、助け合い、協力し合える子」、「仲間とともに育ち合える子」、「仲間励まされ努力し達成する喜びを知る」、「仲間の中で役割を果たせる子」、「仲間や家族の大切さを知る」、子ども像を求めていた。

2番目に多いのは『人権 (人間存在・人間尊重)』に関するもので、「自分の存在価値を信じられる子」、「自分は価値のある人間だという感覚を持てる子」、「愛情豊かにに恵まれた子」、「人に甘えられる」、「自分らしさ・個性を発揮できる子」、「自分に誇り、自信をもてる」、「困ったり悩んだ時は、人を信頼して頼りにできる」、「人を信じ相談できる」、「信頼関係を築ける」などであった。

3番目は、『人格』に関するもので、「相手の痛みや気持ちの分かる子」、「心のやさしい子」、「人を許す気持ちをもてる」、「愛情を持って行動できる」、「人のありがたみの分か

表3-1 施設の子ども像

記述内容	順位 (出現度数)
人間関係	1 (54)
人権 (人間存在・人間尊重)	2 (50)
人格	3 (40)
健康	4 (28)
生活習慣	5 (14)
環境	6 (10)
言葉	6 (10)
情緒	8 (8)
あそび	9 (4)
表現	9 (4)

る子」などであった。

『健康』では、「明るく元気な」、「心身ともに健康」、「生き生きした」などであった。『生活習慣』では、「自分でできることを精一杯やる子」、「自分で考えたり、行動できる」、「自立できる」、「自分でやる喜びを感じられる」等であった。その他『情緒』では「不安なく過ごせる」、「心の安定が得られる」なども少数だが見られた。

## ② 施設の保育士像

表3-2 施設の保育士像

記述内容	順位 (出現度数)
人間性	1 (280)
保育の方法	2 (116)
子どもの理解	3 (58)
保育の内容	4 (48)
保育目標の設定・計画	5 (44)
家庭・地域との協力・連携	6 (28)

度に即した援助ができる」、「心を解きほぐせる」、「心理的支えになる」、「心のケアができる」など、子どもの情緒的なあるいは心身の障害に対応できる保育士像を多くえがいている。また「発達援助」に関するものや、少数だが「子どもの目線と共に歩み共に学ぶ」という記述もあった。

『子どもの理解』では、「子どもの様子に気を配れる（サインを読み取れる）」、「一人一人の話をじっくり聴き、目を向けられる」、「子どもとしっかり向き合える」、「子どものありのままの姿を受け入れる」など、個の理解に次いで個の尊重や受容に関する記述が多かった。『保育の内容』では、「社会的自立の援助」、「生活全般の世話」をする保育士像を主に描いている。『保育目標の設定・計画』では「個性を伸ばし尊重する」、「生きる力を育む」などの他、「知識を身につけさせる」など教育・学習の援助に関する記述も見られた。『家族や地域とのかかわり』では「退所後のケア」ができる保育士という記述も見られた。

## ③ 施設の保育士像への努力

第一に『人間性・保育者自身の心身の健やかさ』では、人間性に関する記述として「誰にでも笑顔でやさしく接し、明るく前向きな人柄でいられるよう心がける」、「普段の生活から色々な人の気持ちを理解し共感できるよう心がける」、「心からひとり一人を大切に思い、人格を尊べられる人になれるよう努めたい」等であり、行動や日常生活の側面では「普段から子どもの手本となるような存在でいられるよう努める」、「元気な挨拶を心がける」、「自分の言動に責任をもつ」等があった。その他、「自己への信頼や自信を持てるよう努力する」などの自己信頼・自信に関する記述、「他者と協力することを心がけ、楽しく生活できるような人間関係を築けるよう努める」など対人関係の側面に関する記述、「健康管理をしっかりする」などの健康に関する記述、「何ごとにも強い精神力を持ち、主体的・積極的に取り組む」などの精神力・意志・主体性・積極性に関する記述、「日常生活から豊かな感性を磨き、様々なことに関心興味を持ち、保育に関わる発見をし、学びに結びつける努力をする」などの感性・興

第一に『人間性』では、「子どもに信頼され」、「悩みを相談され」、「愛情深く」、「明るく笑顔を絶やさず」、「共感的感性を持ち」、「感じていることを理解してあげられ」、「助けを求めてきた時は精一杯力になれる」、「頼りになる」、「子どもに安心感を与えられる」保育士の人間性を重視している。

『保育の方法』では、「一人一人の子どもにあった対応のできる」、「障害の種類や程度



味・好奇心に関する記述があった。

次に『子どもの理解』では、「（施設で生活する）子ども（障害児、被虐待児等）を理解できるように学ぶ（事例に学ぶ）」、「子どもの心理的ケアについて学ぶ」、「子どもの立場に立って気持ちを考えられよう心がける」、「多様な子どもの成長・発達と養護について学び、一人一人に見合った保育ができるようにする」等である。

『保育の内容』では、「（ボランティアなどで）子どもと関わる時間をたくさんつくる」、「ボランティア等の体験を重ね、実践・体験から学ぶ」、「子どもの障害とケアについて学ぶ」、「実習で学ぶ」、「実習で現場（の保育士）に学ぶ」などである。『保育の方法』では「大学での授業（発達心理学、小児保健、児童福祉）を通して専門の知識・技術を身につける」などであった。『健康管理（子どもの保健・健康・安全）』は「障害や虐待について学ぶ」、「心理的ケアについて学ぶ」などの記述であった。

その他、『施設の役割』は「施設の役割・機能を知る」など、『保育の環境』は「現代の子どもを取り巻く社会環境（家庭、地域）を知り、自分に何ができるか考える」など、『家庭の協力・連携』は「家族のケアについて学ぶ」などで、それぞれ具体性に欠ける記述であった。

表3-3 施設の保育士像への努力

記述内容	順位（出現度数）
人間性・保育者自身の心身の健やかさ	1（237）
子どもの理解	2（103）
保育の内容	3（68）
保育の方法	4（50）
健康管理（子どもの保健・健康・安全）	5（28）
施設の役割	6（23）
保育の環境	7（9）
家庭の協力・連携	8（3）
保育目標の設定・計画	9（1）
その他	（12）

## 5. 考察と課題

### （1）「保育所」と「施設」における『子ども像』、『保育士像』、『保育士像への努力』の記述内容の出現度数と内容特徴について

『子ども像』については、「保育所」と「施設」とともに『人間関係』に関する記述が最も多く、次に多いのが、「保育所」では『人格』に関する記述であるのに対して、「施設」では『人権（人間存在・人間尊重）』に関する記述である。これは大学での1年次前期間を通しての「養護原理」などの学習その他から多くの学生が「施設」の『子ども像』として、被虐待児など家庭に恵まれない子どもの姿について多く学び、「保育所」の子ども以上に『人権（人間存在・人間尊重）』が守られ愛情に恵まれて育まれるべきであるという考えを強く持つに至ったためであろう。また「社会的自立」といった内容の『生活習慣』にかかわる記述が「保育所」に比べ「施設」で比較的上位に上っているのも、「保育実習指導（施設）」などの学習により保育所にはいないより年長の「児童養護施設」入所児童や、身辺自立が課題となる「知的障害児施設」入所児童のイメージを描いた結果と考えられる。

しかしながら全般的に「保育所」より「施設」の『子ども像』の記述内容の出現度数が少ないことに関しては、実践にほとんど触れていないため、「保育所」より多様な「施設」の『子ども像』のイメージを抱きにくく、また理論的に学んだどちらかというステレオタイプな施

設の『子ども像』に頼っている様子がうかがえた。その意味で、実践になるべく多く触れる事の重要性が示唆される。現在、「保育実習指導(施設)」の教科学習において、実習以外に1年次夏期・春期休業中のボランティア体験を学生に奨励し、ボランティア体験受け入れ先(施設)の紹介を積極的に行っている。施設実習それ自体は2年次の前期の終わりまで行われないので、ボランティア体験等を通して早い時期に実践に触れる経験をする事は、学生の「施設」の『子ども像』をより現実的なものにし、少しでも早い段階で保育士としての職業選択の可能性を考慮するのにも役立つと思われる。

『保育士像』については、「保育所」と「施設」ともに『人間性』に関する記述がもっとも多く、それに次ぎ『保育の方法』、『子どもの理解』の順に並んでいる。しかしながら、一つ一つの記述について具体的に見てみると、「保育所」と「施設」でその記述内容は異なり、特に「施設」については、障害児理解や、心理的ケアなどの「福祉」と「心理」の理論や援助技術に関係する記述が「保育所」より多く見られたのが特徴的である。これも大学での1年次前期間を通しての学習の成果の現れととらえられる。

『保育士像への努力』については「保育所」と「施設」ともに『人間性・保育者自身の心身の健やかさ』に関する記述がもっとも多く、「保育所」では『保育の方法』、『子どもの理解』がそれに次ぐ。「施設」では『子どもの理解』、『保育の内容』、『保育の方法』の順であるが、『保育の内容』、『保育の方法』について記述内容を見てみると、「ケア」、「障害」などの言葉に見られるように「保育所」に比べて具体性を欠く記述になっている。これは、1年次前期の段階では具体的な福祉の「援助技術」の授業は受講していないことと関連していると考えられる。

## (2) 「保育所」と「施設」における『子ども像』、『保育士像』、『保育士像への努力』の記述内容の結果から検討される教育・指導内容の工夫について

学生側から見た「保育所」と「施設」での『子ども像』、『保育士像』、『保育士像への努力』の若干の違いは、保育所・施設の役割の違いや対象となる子どもの違いについての知識に基づくものと思われる。いずれの像も人間的な識見とそれに基づく人間愛をもったものであり、好感がもたれたが、まだ実習経験もないため体験に基づく具体性や内的理解は乏しく、抽象的な像が多く見受けられた。例えば、「見守る」、「共感する」、「個性」、「明るい雰囲気」というような場合、それらの言葉のみ記述するだけで、具体的になぜ、どんな時に必要かという説明は乏しかった。

その他『保育士像』に関する「保育所・施設の役割」や「家庭との協力・連携」についての記述は特に具体性を欠いていた。学生が実習場面で、確かめ、体得しながら、「そうであつたら望ましい」という客観的とらえ方から、自らの理解と納得に基づいて理論と実践を統合して具体的なイメージを獲得していけるように教育・指導をする必要があるだろう。

自分がなりたい『保育者像への努力』として、保育・養護の知識や技術における努力では、学生は第一に大学の授業を基本に専門的知識・技術を深めることを大切にしている。次に、実習・ボランティア等の直接体験(子どもとのふれあい)や事例研究から「子どもの理解」、「家庭の協力・連携」、「保育・養護の環境」、「保育・養護内容」、「保育所・施設の役割」について実践的に理解するよう努力したいと考えている。その他、知識・技術以外の側面で学生が重視していることとして、子どものモデルになるためには人間性の向上に努め、感性を磨くことが必要であり、そのために積極的に行動したり意欲を持って取り組むことや、日々



の生活や人との出会い・ふれあいから学ぶという姿勢が伺えたのは意義深い。特に、後者に関しては、保育が、日々の営みの積み重ねと、地道で謙虚な努力からなるものであることを考え合わせると、保育者にとっては大切な視点である。

福祉的・教育的機能を併せ持つ幅広い子育て支援を行うためには、子どもと共に生き、豊かな感性を磨き、子どもの内面を洞察し、信頼関係を築くことが強く求められる。そのためには、課題として実践的理解（見学、実習、事例研究、演習等）を深める教育内容・方法を充実していくことが必要であり、それは学生の努力したい内容・方法とも合致する。さらに、子どもと共にいかに生きるかという「自己実現の姿勢」と「保育士の責務・倫理」の教育視点を充実させ、実習前後の学生の変容を検討して、教科指導や実習指導に活用したいと考える。

## 6. 要約

保育士を目指して履修中の学生を対象に、各自が思い描く、「保育所」とその他の児童福祉「施設」の『子ども像』と『保育士像』と『保育士像への努力』の項目について自由記述式質問紙調査を行った。

「保育所」、「施設」それぞれについての各項目の記述内容を抽出、分類し、出現度数を算出した。その結果、各項目について、「保育所」と「施設」でイメージの違いがあった。これは専門教科の学習の成果の一つであると考えられる。しかしながら実践経験がないので、記述内容は総じて知識として記述しており、具体性や内的理解に乏しく、抽象的な記述が多く見受けられた。実習などの実践学習を通して、いかに具体的なイメージが描けるようになるかが今後の検討課題である。

## 7. 文献

- 1) 星野英五・石橋尚子・藤本逸子・松田憲治、保母養成カリキュラムの基礎的研究—学生の子ども観・保育者形成に関する三大学間比較を中心に—。保母養成研究第13号、pp.79-88、(1995)
- 2) 齋藤多江子・松崎洋子・三溝千景、保育学生の理想とする保育士像について—短期大学生と大学生における課題意識を巡って—。保育士養成研究第24号、pp.11-18、(2006)
- 3) 上村裕樹・鈴木郁生、保育者を目指す学生が抱く理想の保育者像—質問紙調査に基づいて—。全国保育士養成協議会第46回研究大会研究発表論文集（鹿児島）、pp.26-27、(2007)
- 4) 幸順子・秋田房子、保育士をめざす短大1年生がえがく、保育所・施設の子ども像と保育士像—その1・実習前の考察—。全国保育士養成協議会第44回研究大会研究発表論文集（大阪）、pp.132-133、(2005)
- 5) 幸順子・秋田房子、保育士をめざす短大1年生がえがく、保育所・施設の子ども像と保育士像—その2・実習前の保育士像への努力—。日本保育学会第59回大会発表論文集（札幌）、pp.902-903、(2006)
- 6) 幸順子・秋田房子、保育士をめざす短大生がえがく、保育所・施設の子ども像と保育士像—その3・実習前後の比較検討—。日本保育学会第60回大会発表論文集（新座）、pp.610-611、(2007)
- 7) 幸順子・秋田房子、保育士をめざす短大生がえがく保育所・施設の子ども像と保育士像—その4・実習前後の保育士像の比較検討—。日本保育学会第61回大会発表論文集（名古屋）、p.223、(2008)
- 8) 保育所保育指針（平成11年度改訂）。フレーベル館、(1999)